メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第 140 号
〔2023 年 10 月発行〕

NPO 法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAM より、2023 年 10 月号の会報をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足した NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。
支援者の皆様へ JAM の最新の活動を２カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞

現地（メソト）から

国内から

編集後記

次号の予定

現地（メソト）から

【メソト：有高　奈々絵】

メソトは雨季も後半に入り、雨が少なくなってきました。私は現在グローバルフェスタや私用のため、一時帰国しています。グローバルフェスタは国際協力に関わる NGO や企業、各国大使館などが参加する日本最大級のイベントで、今年は東京国際フォーラムで 2 日間にわたって開催されました。オンラインも含め約 3.9 万人が参加したそうで、2 年ぶりに出展した JAM のブースにも多くの方が訪れてくださいました。賛助会員さまやスタディツアーにご参加いただいた方はもちろん、JAM のことをご存知ない方も何人も足を止めてくださり、現地の状況やメータオ・クリニックの活動について説明させていただきました。（写真①）

今年は、基本情報のパネル展示に加え、メソトの移民学校の 13 歳の生徒さんふたりが描いた絵も展示いたしました。その学校は今年の 9 月に設立されたばかりで、先生も生徒もクーデターのためミャンマー各地からメソトに逃れてきた方たちです。生徒の中には家族を殺されるなど悲惨な経験をした子供もおり、もともとアートの先生である校長先生が子供たちの精神的ケアの一環として、自由に絵を描く時間を設けているそうです。また絵を 1,200 円ほどで売って文房具などを買う資金に充てており、私は偶然その展覧会を訪れ、衝撃を受けました。お祭りや身近な人物を描いた絵もいくつかあるものの、ほどんどは空爆される町や戦闘の様子、けがをした人など、クーデターの影響が色濃い絵でした。（写真②，③）子供がこのような絵を描かなければならない状況を作った大人の責任は重いと、今更ながら思わざるを得ません。多くの方に実際の絵を見ていただきたく、校長先生の許可を得て 2 枚の絵を JAM のブース内で展示しました。見てくださった方が、国境の子供たちに思いをはせていただければ幸いです。ご来場いただいた方、またブースの運営をお手伝いしてくださった方、ありがとうございました。

右：写真①
グローバルフェスタでの JAM のブース

写真②　移民学校の子供の絵「デモンストレーション」

写真③　移民学校の子供の絵「焼かれる村」

さて今年の 7 月メータオ・クリニックは、保育園・幼稚園である Early Childhood Development, ECD centre を新しく開設しました。（写真④，⑤，⑥）クリニックは保育園から Grade 12 ＝ 高校 3 年相当までの子供を対象に、移民民学校 Child Development Centre, CDC を 1997 年から運営していますが、生徒数がクーデター以降、500 人ほどから 1200 人以上に急増しました。そのため 3～6 歳までの子供たち 114 人を独立した ECD に移し、CDC に新しい生徒を受け入れるスペースを確保しました。さらに ECD は来年、タイの正式な教育施設として登録することを目指しています。CDC などの移民学校は正式な教育施設とは認められていないため、Grade12 で卒業しても大学受験資格が得られません（資格を得るためにはアメリカなどが行っている General Education Development という国際的試験に合格する必要があります）が、ECD がタイの正規教育システムに統合されれば、将来的に子供たちがタイの市民権を得る一助となります。

そのような取り組みが認められ、ECD の 6 つの教室はすべて在タイ日本大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」によって建設されました。そのため 9 月に行われた引き渡し式には、大使館から田坂公使と鈴木書記官にご出席いただき、そのあとメータオ・クリニックなども視察していただきました。（写真⑦，⑧）在タイ日本大使館がタイにおけるミャンマー移民の現状、メータオ・クリニックの取り組みに理解を示し、ご支援くださったことはありがたい限りです。また私たちの税金が移民の子供たちに教育と保護、そして母国への帰還が難しい中、将来の可能性を広げる一歩を提供するために役立てられ、一納税者として嬉しく思います。

写真④　ECD の引き渡し式

写真⑤　ECD の教室

写真⑥　ECD の教室

写真⑦　大使館の方にメータオ・クリニック内を案内するシンシア医師

写真⑧　メータオ・クリニックにて

現在も、タイ側への避難民は増加し続けていますが、親はミャンマー側で働き、子供だけ教育のためにタイ側にやってくるケースも多く見られます。ミャンマーでは 2020 年の新型コロナウイルス感染症による学校閉鎖から始まり、クーデター後の戦闘や先生たちの市民的不服従運動のために、すでに 3 年間教育を満足に受けられていない子供が多いためです。単身タイにやってきた子供たちは親戚などを頼るか、学校の寮に入るしかないため、多くの移民学校が教室のみならず寮の確保に追われています。例えばある移民学校では、2019 年に 900 人だった生徒数が現在 2,300 人まで増加しました。寮にすでに 350 人の定員を超えており、入りきらない生徒を見かねて、今年 5 月に地元のミャンマー人が家賃を提供し、私設の寮を開設しました。（写真⑨）現在、移民学校の正規の寮は UNESCO から食料支援を受けられますが、私設の寮には適応されません。メータオ・クリニックの Child Protection Department も一部の移民学校の寮に毎月食糧支援を行っていますが、その寮は食料が足りないと、9 月にメータオ・クリニックから JAM に食料支援の要請がありました。寮を訪問したところ 9 歳から 19 歳まで 53 人の生徒さんが、男子はちゃんとした壁のない建物、女子は、壁はあるものの過密状態の建物に暮らしていました。生徒は寮費を支払う必要がありますが支払えない生徒も多く、運営費の不足分は地元のミャンマー人からの寄付で賄われています。地域の教会の牧師さんが寮長をつとめていることもあり、教会の信者からの寄付が多いようですが、宗教やミャンマー内の出身地にかかわらず、さまざまな生徒を受け入れているとのことでした。食費は常に不足しており、野菜は周囲に生えている食べられる草を採集したり（この地域では一般的に行われています)、マーケットで寄付してもらったりしている、お米は買えず、お米と大豆を混ぜた栄養食をお粥にして食べているがすぐおなかが空く、卵や魚などたんぱく源となる食材も買えないとのことでした。

JAM は、メータオ・クリニックと協議の上、現在特に困窮度の高いその寮に 3 か月分のお米、数週間分の卵、魚の缶詰、豆の計 16 万円分を提供し、非常に喜んでいただけました。寮長さんは、家賃や食料の調達はいつも綱渡りだがいろいろな人の善意で何とか 4 か月やってこれた、子供たちには是非ここで学び続けてほしいと語ってくださいました。この資金には全日本自治団体労働組合さまからいただいた 100 万円のご寄付の一部を、充てさせていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。（写真⑩）

左：写真⑨　移民学校の新しい男子寮
下：写真⑩　提供したお米、卵、魚の缶詰、豆

ミャンマー国内では、北部カチン州ライザの国内避難民キャンプで夜間大規模な爆発があり、BBC などによると少なくとも 29 人が死亡、56 人が負傷したとされます。(写真⑪)
ライザはカチン族の少数民族武装勢力 KIA の支配地域ですが、国内避難民キャンプはどこも子供、女性、高齢者が多く、今回の被害者のほとんどが女性と子供だったとのことです。
現在、中東でも民族、宗教、歴史的背景に基づいた憎悪と暴力の連鎖が激化しています。もし、そこに自分がいたらという恐怖と、何もできない無力感でニュースを見るのがつらくなる日々ですが、またメソトに戻り、目の前のやるべきことをやっていこうと思います。

写真⑪
カチン州の
国内避難民キャンプの
爆発現場
（Myanmar Now より）

国内から

【吉河　万帆】

皆さまはじめまして。JAM の学生会員の吉河万帆と申します。都内の看護学生です。
2023 年度スタディツアーに参加したこともあり、投稿記事を書く機会をいただいたので、拙い文ではありますが、以下４つについて書かせていただきます。

① ツアーの感想：
どの訪問も、学びが多く貴重な経験になりましたが、幾つかに絞ります。

CDC(The Children's Development Center)を訪れた際に聞いた、健康診断で心臓の手術が必要だと分かった CDC の生徒がいるが、コロナの影響で支援が滞り出来ていないという話を、メータオ・クリニックの Community Health Department の担当者に伝えたところ、治療費を支援する団体である BCMF(ビルマ子供医療基金)への寄付の検討をお話しされました。心臓の手術がどれ程、急を要するものであるか不明ですが、生命への影響というより、お金があるかないかで医療処置が受けられるかが決まることがあるのだと知りました。また、シンシア院長が、外国人ができることは、まず実際の状況を知ることと話されていたのが印象的でした。クリニックの医療スタッフ養成課程が特徴的で、例えばメディックという、クリニック独自の教育過程を経て手術を含む治療を担っているスタッフがいることに驚きました。
メラ難民キャンプの訪問で、キャンプ内の方は学校に通え、配給などで最低限の食事は確保されているが、学校を卒業しても基本的に就職先がキャンプ内の数カ所の施設に限られていたり、移動の自由が少ないなどで、人生の選択に制限があることを感じました。
The Back Pack Health Worker Team(Web サイト:https://backpackteam.org/)の医師らの、お金がたとえあっても、不法入国などを軍が取り締まるためのチェックポイントの多さや、道路の閉鎖、安全上の理由により、物資を運ぶことが難しく、ミャンマー内からの輸血などの補給要請に応えられないこともあるという話に考えさせられました。
ビルマ政治囚支援協会(AAPP)と清掃場近くのコミュニティ訪問の感想は④に書きました。

滞在中は折角のお話も英語が十分聞き取れない、自身の英語が伝わらないなど、外国語でのコミュニケーションに課題を感じました。
現地の気温は丁度良く、豊かな自然と美味しい食事、様々な人にお会いして、よい時間を過ごすことができました。
写真などでまとめたものをこの記事の最後に添付しましたので、どうぞご覧ください。

② グローバルフェスタ出展：
9 月 30 日、31 日に東京で開催されたグローバルフェスタ 2023 に JAM も出展しました。
ボランティアで手伝いに来られた方々がおられたり、来場された方々が現地のハンディクラフトやメータオ・クリニックの T シャツ、JAM の関連書籍を買ったり寄付をして下さいました。私は用事で行けませんでしたが、賑やかそうな様子を後日見て、対面して活動状況を伝える機会があるのはいいなと思いました。

③ 広報：

JAM は、主に Web サイト、Facebook、Twitter で随時情報発信をしていて、Facebook のフォロワー数は 1,665 人、Twitter は 176 人(2023 年 10 月 10 日現在)です。YouTube、Instagram のアカウントもあります。現地派遣員の帰国会やスタディツアー等を行う場合は、PARTNER や activo というサイトにも期間限定で情報の掲示がなされています。

サイト閲覧者や Facebook 等のフォロワーの方が、JAM からの情報を受け取っておられるかもしれないことは嬉しく思います。しかし、閲覧やフォローは無料で負担や時間の制約が少なく、気軽にできますが、私自身は会費を払って会員になることで、自動的に情報を受け取り、定期的に現地の状況を知れる環境に身を置け、より関心を保っていられると思っています。そのため、例えば Facebook で JAM をフォローしている 1600 人ほどの方は JAM を知っているため、あともう一歩踏み込んで JAM に会員として関わってくださったらいいなと、個人的には思っています。会員の方が増えたら、JAM の資金から、現地への治療費に充てられる分が少しでも多くなるかもしれないと思うからです。

また、日本政府観光局(https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--Japanese--Trends)によると、日本からタイへの訪問者数はコロナ前の 2019 年では 1,806,438 人で、多くの人がタイを訪問しており、その数は増加傾向にあります。しかし、その中でメータオ・クリニックやミャンマーからの移民について知り、少しでも興味を持っている人がどれくらいいるだろうと思わされました。タイに行く人が情報収集する際に、メータオ・クリニックやミャンマーからの移民について目にする機会があったらよいかもしれないと考えました。

④ ミャンマーでの拘禁とタイのゴミ山、日本の入管施設：

ビルマ政治囚支援協会(AAPP)の資料館を訪れ、元被収容者でもある協会の方に、「ミャンマーでの拘禁の暴力や拷問の犠牲を減らすために、何かできるでしょうか」と訊ねたとき、「沢山ある、一つは日本政府による圧力だ」と言われたのが心に残っています。

タイのメソト内の清掃場にはゴミの山があり、その近くにリサイクル物資の分別などで生計を立てている方のコミュニティがあります。ミャンマーからの不法移民も含まれています。コミュニティの住民から、合法な立ち位置が得られないため、難民キャンプ内に暮らす住民よりも収入が不安定であるなどの話や、生活状況を見て苦境にある様子を感じました。他の訪問先と違い、住民に笑顔が見られなかったことも印象的でした。

日本に目を向けると、在留資格がない外国人を収容する入管施設では、医療体制の不十分さがあり、死亡する方もいます。(参考記事：収容ってなんですか？弁護士に聞く収容問題 ｜認定 NPO 法人 難民支援協会 (refugee.or.jp))

どの場所のどのような人にも、人権は保障され、必要な医療があってほしいと思いました。

実り多き秋になるといいですね。お読み下さりありがとうございました。

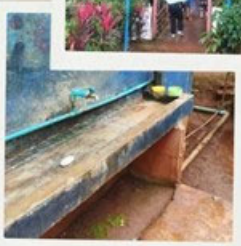
2023スタディツアー 会報報告

MAE TAO CLINIC

〈院長のシンシア医師と話したこと〉
・1日に300～500人の外来患者が利用する
・移動診療はタイの法律上、認められていない。
・各分野の専門医を招聘する資金がないが、ボランティアで白内障の手術を行ってくれる団体などはいる。
・抗生剤の投与、補液などの対症療法などは可能だが、人工透析、抗がん剤、帝王切開、頭蓋内から銃弾を取り出す手術、四肢の切断手術など高度な医療は出来ず、メソト病院に紹介する。医療費を支払えない患者もいるため、メソト病院は未回収のお金が多くある。必要最低限の治療をメソト病院で行い、創部の消毒、リハビリ等はMTCで行う。
・近年の大きな問題は、患者の問題がより困難で複雑になっており、患者のニーズへの対応能力を高める必要があること。例えば、脳の外傷後のリハビリなど長期間に渡るケアの必要、性的虐待など。
・外国人が出来ることとしては、まず、実際の状況を理解すること。

〈Community Health Departmentの担当者と話したこと〉
・仕事内容としては、個人衛生、歯科衛生、感染症(はしか、水疱瘡、マラリア、covid 19など)について、移民学校の生徒や先生、工場などで教えること。生徒の家族には教育できていないことが課題。
・タイの大気汚染(PM2.5)への対応として、大気汚染がある乾季のみ、マスクやフェイスシールド、眼を保護する物を配る。汚染が深刻な際、家にいるように伝えている。

移民学習センター（ホープ校）
HOPE MIGRANT LEARNING CENTER



↑2023年にJAMが建設支援した校舎。

〈概要〉
タイ・ミャンマー国境沿いの教育団体やNGOの支援で運営されているMLC（Migrant Learning Center）は移民の子どもに教育を届ける場所で、Hope校はその1つである。
〈校長先生・先生たちと話したこと〉
.1人の子どもにつき親は1年に1,200バーツ、3人以上なら2人分の2,400バーツ払う。授業料を払えない家庭も多い。
毎月の運営費で支出は計24,000バーツ程。収入は親とHelp Without Frontiers (HWF) Thailand Foundation合わせて約23,000バーツ。不足は校長先生等が工面。学校の建設費や備品はHWF、JAMの支援で得ている。
〈訪問時の様子〉
・生徒は挨拶やお辞儀をしてくれ、掃き掃除やトイレの水汲みも黙々と行い、礼儀正しかった。昼食に白飯を食べていた。小柄で細身の子が多く感じた。
・校内に手洗い場所があった。消毒用アルコール、マスクなどの衛生物品を置いている保健室のような場所があった。

メラ難民キャンプ
MAE LA REFUGEE CAMP

〈キャンプリーダー、調達・人事・保安の部門責任者と話したこと〉

・ミャンマーとの国境沿いにある9つの難民キャンプ(合計9～10万人が居住)のうち、3～4万人が居住する最大のキャンプ
・3つのクリニック（入院できるのは1つのみ）があり、非医療系含む300人のスタッフが交代で24時間勤務。
・メソトに住む3、4人のミャンマー人の医師が日中のみ勤務し、夜間はMEDIC、NURSE AIDが対応。
・キャンプ内の病院での全ての治療・薬代は無料。
・手術や異常分娩の出産、重症者は、公立メラマ病院（車で20～30分）やメソト病院（同1時間）に搬送。
・キャンプ内の90%の人が第三国定住希望だが、国連の登録カード(UN REGISTRATION CARD)保有者しか第三国定住の資格がなく、カードは2015年以降は発行されていない。面接と健康診査に合格し、文化などに関する研修を受けなければ、第三国には行けない。第三国定住事業は2015年以降停止しており、2021年以降、選考が進んでいた約2000～3000人がアメリカ、オーストラリア、ドイツなどに再定住した。
・教育費は無料。
・学校を卒業しても、キャンプ内では病院か、学校か、NGOしか就職先がなく、キャンプの外での居住、就労は基本的には認められない。
・キャンプ内の病院での給料は、IRCから1月につき2,000バーツ支給される。

ゴミ処理場近くのコミュニティ

〈居住者へのインタビューでの生活状況〉
・最近、膝程まで浸水することがあった。
・1日に1時間しか学校で授業を受けていないという子どもがいる。訪問時はスマホでゲームをしていた。
・不法移民は合法移民とは違って、最低賃金(300バーツ/日)以下で雇用主は働かせられる。
・家族計画のために必要な避妊薬などが足りていない。
・洗濯には近くの川を利用しているが、その川にはメソト市内の一部の下水が流入しており、水質汚染の恐れが高い。飲料水は雨水か川の水を煮沸するか、購入している。
・学校にある1つの井戸から水を汲んでいる。トイレは、排泄物が掘った穴にたまる仕組みで、穴が満杯になれば別の場所にトイレを作る。
・周辺では公的な電線は敷設されていないので、ろうそくを利用するようである。ソーラーパネル、ソーラーランタンを提供している支援団体がある。

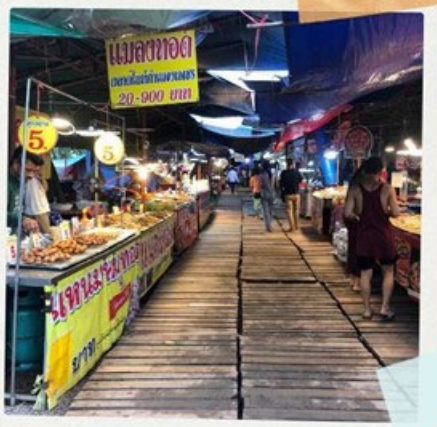
メソトの寺院

食べ物

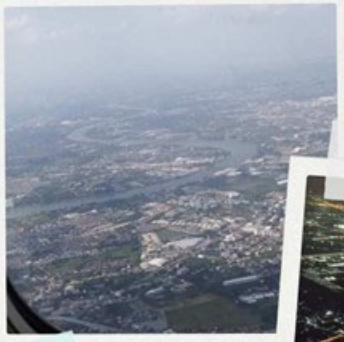
メソトの市場

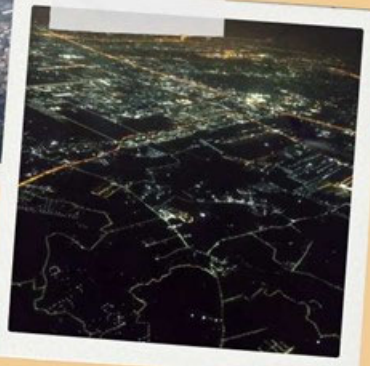
犬がよくいました

WEEKEND MARKET



タイ・バンコクの昼と夜





☆ JAM 会報の「国内から」のコーナーに寄稿してくださる会員様を募集しています！☆

現在、このコーナーは、JAM スタッフが交代で書いておりますが、2023 年の会報から、賛助会員の皆様との交流を目的に会員様からの寄稿も募集することにしました。メータオ・クリニックや JAM との出会いに関するエピソードなどなど、ぜひお聞かせください。

ご興味のある方は、support@japanmaetao.org（日本事務局宛）までお気軽にご連絡ください。

編集後記

私は病院に勤めて 4 年目を迎え、慣れた仕事を単調に感じる一方で学生の頃に感じた医療職種間での埋まらない溝を改めて感じています。医療現場では各専門職と看護師、医師との連携によって患者の診療を行っていますが、それぞれの職種の役割に対して理解が足りていないのが現状です。私は臨床検査技師ですが、普段は患者さんとほとんど顔を合わせないので、“信頼性の高い検査結果を出すこと”のみに意識を集中させてしまい、果たしてそれが本当に臨床側が求めている対応なのかを考える暇がありません。慣れて余裕が出てきた今だからこそ、初心に立ち直って、“患者のための医療”を考え続けたいです。

次号の予定

次号は、12 月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

NPO 法人メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会の Facebook もフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1 日 10 円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。
【一般会員】3,650 円/年　　【学生会員】1,825 円/年　　【法人会員】36,500 円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。

◇◆◇

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局 email	support@japanmaetao.org
JAM ウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)　で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

◇◆◇